

1. 事業の概要

わが国の世界自然遺産候補地である「小笠原諸島」と「琉球諸島」については、世界自然遺産としての価値について整理が行われるなど、推薦に向け着実に進展しており、平成19年1月に「小笠原諸島」が推薦の前提である暫定一覧表に記載された。

一方で、世界遺産への登録にあたっては、顕著な普遍的価値の評価や保全管理の状況について、近年、非常に厳しく審査される傾向があり、類似遺産との比較を含めた的確な価値証明と科学的知見に基づく総合的な管理計画の策定、保全管理体制の整備等が不可欠である。

また、「琉球諸島」については、民有地にも、価値の中心となる固有種や希少種が多く生息しており、これらに配慮した資源利用の確立が不可欠である。

このような状況に対応するため以下の事業を実施する。

(1) 小笠原諸島世界自然遺産登録推進調査

科学委員会及び地域連絡会議を運営し、希少種対策や外来種対策等の課題解決に取り組むとともに、推薦書、管理計画、外来種対策アクションプランを作成する。

(2) 琉球諸島世界自然遺産登録推進調査

琉球諸島では、推薦・登録に不可欠となる顕著な普遍的価値の精査を進めるとともに、その価値を損なわないための保全管理体制の整備、世界遺産と共生する社会モデルの具現化を行う。

2. 事業計画

(1) 小笠原諸島世界自然遺産登録推進調査(21年度～)

(2) 琉球諸島世界自然遺産登録推進調査(21年度～)

3. 施策の効果

(1) 「小笠原諸島」と「琉球諸島」について、世界自然遺産への推薦・登録に向けて、地域が有する自然の恵みや価値を改めて整理し、地域の将来像を描く中でどのような形で保全・利用していくのかを地域で議論することにより、自然と共生する地域社会を実現

(2) 両地域を世界遺産に登録することにより、国際的な視点を踏まえた保全管理体制が構築されるとともに、世界遺産を活かして地域振興に寄与する仕組みを構築

4. 備考

調査費

39百万円

小笠原諸島世界自然遺産登録推進調査

13百万円

琉球諸島世界自然遺産登録推進調査

20百万円

世界自然遺産地域に関する情報収集、分析

6百万円

世界自然遺産候補地の新規登録に向けた取組

国内候補地の推薦に向けた課題

世界遺産委員会での議論

- 「世界遺産は登録の時代から保全の時代へ」
→新規登録の**審査は厳格化**する傾向
→管理の質が高く、**自然保護地域の手本**となる地域

小笠原諸島・琉球諸島

顕著な普遍的価値の証明と保護担保措置を十分整えた上で、推薦

今後の課題

- 審査の厳格化への対応
外来種対策の加速的推進
遺産の価値と共生する自然資源利用の確立

小笠原諸島



グリーンアノール

外来種対策等が課題

世界自然遺産登録推進調査費

国際的に説得力の高い「推薦書」等の作成と、将来にわたる価値の保全の担保

〔事業内容〕

- 科学的知見、既存の世界遺産との比較解析に裏付けられた、当該地域の価値を証明できる「推薦書」の作成
→ (唯一性に関する説得力の強化)

- 遺産地域の管理方針を定めた「管理計画」、外来種対策などの「アクションプラン」の作成
→ (将来にわたる保全の担保)

- 持続可能な自然資源利用のガイドライン作成、地域の理解の醸成
→ (遺産の価値と共生できる社会づくり)

琉球諸島



ヤンバルクイナ

絶滅危惧種の生息地保護等が課題